

# 学園情報

# 177

2024年9月1日発行

AZABU UNIVERSITY 麻布大学 麻布大学附属高等学校 麻布大学同窓会



今号テーマ

## 「好評嘖嘖」

【特集1】犬を介して人と人がつながっていく「わんわんマルシェ」を開催

【特集2】麻布大学初・応援団と吹奏楽部が生演奏&大学歌の斉唱でコラボレーション

# NEXT AZABU A NEW JOURNEY

## 01 新理事会が発足



2024年5月31日をもって本学園の理事・監事・評議員の任期が満了し、2024年6月1日から新理事会が発足しました。  
学校法人 麻布獣医学園 理事長 小倉弘明氏(重任)

後列(左から) 西出尋之監事、太田隼人理事、柳原聡理事(事務局長)、折戸謙介理事、市川陽一郎理事、小澄正敬理事、林徹理事  
前列(左から) 中村滋理事、石原淳子理事、川上泰理事(学長)、小倉弘明理事長、飯田敦往理事(校長)、蒲島郁夫理事、坂本研一監事

## 02 新学科「獣医保健看護学科」 スタート



2024年4月、記念すべき第1期生78人が入学しました。約130年以上におよぶ獣医学教育のノウハウを生かし、患者(伴侶動物)に寄り添い、飼い主に信頼される「獣医療チームの要=愛玩動物看護師」を養成します。  
島津徳人学科長のコメント  
「コミュニケーション力が高くて元気な学生が多く、今後の成長が楽しみです。」  
学生の今後の成長に、ぜひご期待ください。

## 03 附属動物病院 リニューアルオープン



2024年1月、附属動物病院の増改築が完了し、獣医臨床センター(既存棟)に加えて、新たに動物医療センター(増築棟)がオープンしました。高度獣医療を担うのに相応しく、患者様に気持ちよく過ごしていただけるような内観と最新設備に一新しています。これからも獣医師の皆様、飼い主の皆様最新の動物医療を提供し、積み上げた経験を獣医師向けセミナーや学会活動に還元させていただくとともに、獣医学発展に貢献していく所存です。



### 今号のテーマ「好評嘖嘖」

好評嘖嘖(こうひょうさくさく)＝非常に評判のよささま。「嘖嘖」は人々が口々にうわさするさま。評判するさま。今号では、犬を介して地域のつながりと住民の幸福度を高めることをめざした「わんわんマルシェ」と、大学初の動きとなった「応援団と吹奏楽部のコラボレーション」について特集しています。学内にどまらず学外の方々にも好評嘖嘖のうちに終わった、ふたつの取り組みをご覧ください。

## CONTENTS

〈ニュージャーニー〉		〈トピックス〉	
・新理事会が発足		●麻布大学	08
・新学科「獣医保健看護学科」スタート		●麻布大学附属高等学校	10
・附属動物病院 リニューアルオープン	02	●麻布大学同窓会	12
目次	03	新任教職員あいさつ	14
【特集1】		麻布大学ワンだふる本募金	
犬を介して人と人がつながっていく		雑誌スポンサー募集	
「わんわんマルシェ」を開催	04	編集後記	15
【特集2】			
麻布大学初・応援団と吹奏楽部が			
生演奏&大学歌の斉唱でコラボレーション	06		

## 01

## 特集1

犬を介して人と人がつながっていく  
「わんわんマルシェ」を開催

麻布大学では相模原市中央区及び相模原市獣医師会の協力のもと、犬を介して地域のつながりと住民の幸福度を高めることをめざした「わんわんマルシェ」を2024年1月6・7日に開催しました。今回は開催に至った経緯や今後の展望などについて、運営にかかわった麻布大学獣医学部の菊水健史先生、同大研究補助員の中村月香さん、獣医学部動物応用学科3年の中村風沙さん、難波花帆さんにお話をうかがいました。

## 手探りではじまったマルシェ開催の準備

——はじめに「わんわんマルシェ」が開催された背景について教えてください。

(菊水先生)：日本学術振興会による2023年度科学研究費助成事業の「基盤研究(S)」に採択された、私たちが取り組んでいる研究課題「ヒトイヌ共生によるWell-beingの向上・向社会性・社会ネットワークの強化との関連」のなかに、「犬を介して人と人がつながることでウェルビーイングが高まる」という研究があります。これを「動物共生科学ジェネラリスト育成プログラム」(通称：ジェネプロ)のテーマとして、学生の皆さんと共同で実践してみようということで開催が決定しました。

——なぜ、「マルシェ」だったのでしょうか？

(菊水先生)：犬がいて、見知らぬ人同士でも自然と会話がはじまって、そこにネットワークが形成されることをわれわれは経験的に知っていますし、先行研究もあります。しかし、それが実際に起こって、起こった後に人のウェルビーイングが高まるかどうかについての調査はありませんでした。例えば地域住民の方々に参加される「マルシェ」には、犬連れの方々も来られます。犬をきっかけに、そこに集まった人たちにどういった変化が起こるのか、それを調査研究する介入実験の手段として「わんわんマルシェ」は開催されることになりました。

——開催に至るまで、どんな部分で苦労されましたか？

(中村(月)さん)：準備がはじまったのが2023年9月頃で、相模原市中央区や淵野辺駅の「にこにこ星ふちのべ商店会」の皆さんにご協力いただき、マルシェへの出店を希望される方へのお声がけもスタートしました。はじめて開催するイベントだったこともあり、どういったことになるか、当初は誰ひとりイメージできませんでした。結局、手探り状態で準備を進めていったため、いろいろと大変でした。

(中村(風)さん)：私たちは主に学内のボランティア募集や、当日のスタッフ側のシフト作成について準備していました。やはりどういう状態で開催されるかわからなかったため、どこにどれだけの人数が必要か、どんな仕事内容なのか、といったことをスタッフに周知していくのが難しく、仕事内容の指示書をつくっていくのに苦労しました。

(難波さん)：一番苦労したのは人手を集めるところです。ただ、卒業生や先輩方の協力もあって、80名のボランティアを集めることができました。実際に開催してみると人手が余る場所と、逆に足りない場所が出てしまい調整が必要になりましたが、2日目にはその反省点を踏まえてうまく対応できたと思います。

(菊水先生)：みんなが頑張ってくれたおかげで、開催準備に関して私はあまり苦労することがありませんでした。ただ、当日は予想以上に多くの方が来場されたこともあって、駐車場に車があふれて近隣の施設にご迷惑をかけたしまったり、犬のおしっこに関して学外から苦情があったりと、トラブルへの対応に頭を悩ませました。

## 麻布大学ならではの取り組みが好評に

——当日は何名くらいの方が来場されましたか？

(中村(月)さん)：イベントの趣旨としては、近隣の住民の皆さんを麻布大学に招きたいということがあったため、相模原市や町田市を中心に告知をしました。そして、当初は1日500名、2日間で1000名の来場を予想していましたが、結果的に2日間で6400名の方に来場していただけたのはうれしい誤算でした。

(菊水先生)：相模原市と町田市から来場された方が60%だったのは、狙い通りでした。そして、来場された方のうち、犬を連れた方は約85%。マルシェ当日の矢部駅では、電車内で犬をケースから外に出さないようアナウンスがかかるほど目立っていたようです。

(中村(風)さん)：連れている犬の種類も本当に様々でしたね。

(難波さん)：ウルフドッグとかグレートデンのような超大型犬から小っちゃいコまで、幅広い犬種を目にすることができました。

——マルシェには、どんな出店があったのですか？

(中村(月)さん)：ドッグフードなど犬関連の出店に加え、犬とは関係のない飲食店や雑貨店、自治体などの出店を合わせて60くらいです。ほかにも、ドッグランを運営している株式会社ドッグラン・ラボさんに協力していただき、学内のドッグランを開放しました。

## INTERVIEW

(菊水先生)：いろいろ出店があったんですが、一番にぎわっていたのは麻布大学の応援団のところでしたね。

(難波さん)：犬用の特攻服を売っている出店者さんがレンタルもやっていて、その場で着用して写真撮影ができたんです。ドッグランの近くに、プレザーを着て鉢巻を巻いて、大学の校章が入った旗をもった応援団と一緒に撮影できるスポットをつくったら、すごい行列ができていました。

#### ——開催後、来場者の皆さんからどういった反応がありましたか？

(中村(月)さん)：とても好評で、「これからも継続して開催してください!」という熱烈な声もいただきました。飼い主さんがトイレに行っている間、学生たちが犬を一時的にお預かりするスポットも好評でしたね。そうした細かな取り組みは意外と珍しかったので、「さすが動物について学んでいる大学だね」といった声を聞くことができうれしかったです。

(難波さん)：「初日だけのつもりだったけど、楽しくて2日目も来ちゃいました」といった声もありましたね。

(中村(風)さん)：犬を介して人と人がつながることがマルシェの目的だったわけですが、実際に会場で飼い主さん同士だけでなく、犬を連れていない人も交流されている姿を見られて、開催まで頑張ってきたよかったと思いました。

#### ——ボランティアとして参加した学生の皆さんの

##### 反応はいかがでしたか？

(中村(風)さん)：犬好きの学生が多いので、みんな犬たちと触れ合うことができ喜んでいました!

(難波さん)：いろいろな犬種が見られて、挨拶もできたので、犬好きの学生にとってはたまらなかったみたいです!

#### //////////////////// 大学や地域の魅力を知ってもらうために ////////////////////

#### ——今回のマルシェ開催を通じて、

##### どういった研究成果が得られましたか？

(菊水先生)：犬連れの方の約80%、犬を連れていない方も約60%が、会場で会った知らない方と話したというデータがとれています。これは通常のイベントと比べ、かなり高い確率で新しいコミュニケーションが生まれていることとなります。相模原市の担当の方も、犬がいるだけで人と人が和気あいあいと会話している様子を見て、驚いていました。また、ウェルビーイングに関しては、2023年8月に相模原市に生まれている500名近い方々を対象にすでに調査を行っているため、マルシェ開催前後で地域のつながりと住民の幸福度に違いがあるか、今後、明らかにしていきます。こうした介入実験は、普段、あまり効果を得られないものですが、ぜひ何らかの変化があることを期待しています。

(中村(月)さん)：今回のマルシェ開催中には、犬をカートに入れることで一緒に飲食店に入ることができないか、衛生面での調査も行いました。現状の法規制のもとでは難しい問題ではありますが、今回のデータをもとに研究を進めていくことで、まずは相模原市さんと協議を重ね、条件を緩和していくことで、犬連れの皆さんがもう少し歩きやすいまちづくりの仕組みができればと思っています。

#### ——今後の展望について教えてください。

(中村(月)さん)：次回のマルシェは2025年3月末の開催が予定されています。今回の反省をふまえ、犬を連れていない方や普段犬と接する機会のない方の来場を、もう少し増やせるようにしていきたいですね。そして、犬だけでなく、猫や馬、牛など、麻布大学が行っている幅広い研究について、地域の皆さんに知っていただけるような取り組みもしていきたいと思います。

(菊水先生)：次は、地域のみなさんにふらっと立ち寄っていただいて、そこで会話が生まれるようなイベントをめざしたいです。さらに、地元の商店会にはこんなお店もあるんだってということを知っていただく取り組みも、重点化させていくのが目標です。その結果、地域との新しいつながりが生まれてくれれば、私たちの研究の目標は達成できます。単に犬好きだけが集まるイベントにはいけないというのが、今後に向けた課題になります。

(難波さん)：私たちは運営の中心から退くことになると思いますが、後輩のジェネプロの学生たちをサポートする形でかかわっていききたいです。

(中村(風)さん)：ジェネプロでは相模原市獣医師会さんと一緒に、公園や動物病院、ペットショップなどの情報を掲載した「お散歩マップ」をGoogleマップ上で作成しています。このマップは、今後、一般にも開放していく予定です。マルシェと連携しながら地域の皆さんの交流に役立っていければうれしいですね。



# INTERVIEW

## コロナ禍で途切れた大学歌の斉唱

—— 應援團と吹奏楽部のコラボレーションは、  
どのような経緯から実施されたのでしょうか？

(河合先生)：以前より麻布大学では、入学式と卒業式に大学歌の斉唱を行っていました。しかし、本学には合唱部がなかったため、吹奏楽部員のピアノ伴奏で吹奏楽部員が歌っていたのが現状です。ただ、せっかく吹奏楽部があるわけですから、吹奏楽で伴奏したいという思いを常々もっていました。そこで2020年、岩間俊之氏に、大学歌の吹奏楽版の伴奏譜を編曲していただき、いつか伴奏できることを夢見て準備しておりました。ところが、それと同じタイミングで、いわゆるコロナ禍がはじまったことで入学

式、卒業式が未実施または簡素化され、大学歌を斉唱する機会もいつの間にかなくなっていました。このままだとコロナ期間中に入学してきた学生の皆さんは、在学中に大学歌を一度も歌わずに卒業することになる。それでよいのかという思いに至り、吹奏楽部による大学歌の生演奏ができないかと大学に相談したのがきっかけです。

(平先生)：應援團はこれまでも大学が主催する様々なイベントで演武を披露し、好評を得ていました。そして、應援團も吹奏楽部も、それぞれ単独では入学式や卒業式にかかわってききました。ただ、大学側としては、コロナ禍を経て活気が失われつつあった式典を再び盛り上げていきたいという思いもあったようで、その結果、大学初となるコラボレーションが実現するに至りました。

—— 合同演奏をするにあたって、どういった部分で苦労しましたか？  
(三浦さん)：人数が多かったことに加え、練習を行う時期が春休みだった



平 健介先生



三澤 宣雄先生



井田 和宏さん

# 02

## 特集2

# 麻布大学初・應援團と吹奏楽部が 生演奏&大学歌の斉唱でコラボレーション

麻布大学が挙行了した令和5年度卒業式(令和6年3月15日)及び令和6年度入学式(令和6年4月6日)において最大の目玉となったのが、應援團と吹奏楽部のコラボレーションによる生演奏&大学歌の斉唱です。大学初となる取り組みはどのような経緯から始動し、実施に至るまでどのような苦労があったのか。今回は應援團顧問の平健介先生、三澤宣雄先生、団長の井田和宏さん、吹奏楽部顧問の河合一洋先生、部長の三浦若菜さん、指揮者の関響貴さんにお話をうかがいました。



河合一洋先生



三浦若菜さん



関響貴さん

こともあって、みんなの予定を合わせるのが難しかったですね。

(井田さん)：吹奏楽部の演奏と應援團の歌声のテンポに違いがあるため、そこをすり合わせていくことが大変でした。しかし、吹奏楽部の皆様のご協力もあり、全員で試行錯誤を重ねながら乗り越えていくことができたと感じています。

(関さん)：いちばんの難題となったのは「音の時差」です。最初に、大教室を使って練習していたときは問題なかったのですが、実際の会場となるアリーナでは設営の関係から、應援團は会場1階ステージ前、吹奏楽部は2階後方に配置されたため、お互いが50メートルほど離れて演奏することになりました。その結果、演奏した音が應援團の皆さんのもともと届くのが遅れてしまい、伴奏と歌がずれてしまったんです。

(井田さん)：視覚情報よりも音が遅れて耳に入ってくるため、リハーサルの段階では、演奏された音が應援團に届くまで体感で1秒ほどの差がありました。そのため聞こえてくる演奏に合わせて歌うと、すごいずれができてしまい、本当にぐちゃぐちゃだったことを覚えています。

## 難題を乗り越えて融合した伴奏と歌声

——そうした「音の時差」をどのように改善していったのでしょうか？

(三浦さん)：吹奏楽部と應援團で意見を交換したり、先生方からアドバイスを受けたりしながら、指揮者の向きを変える等の工夫をしていきました。

(井田さん)：應援團は基本的に私の動きに合わせて歌うので、最終的にとった対策としては、指揮者である関さんの動きに合わせて、私が演技することにしました。その結果、伴奏と歌のずれを解消することができました。

(三浦さん)：ほかにも印象的だったのが、應援團の皆さんの迫力ある歌声。今回の合同演奏において、やはり主役は歌だったので、その邪魔をしないよう演奏することを心がけました。

(三澤先生)：應援團としては、これまで楽器といえば太鼓くらいで、それに合わせてがむしゃらに大声を出すだけでした。きちんと演奏に合わせて声を出すのは今回がはじめての経験だったので、最初はどうしても様子を見ながら発声することになってしまい、思いのほか声が小さくなりやすかったですね。

(平先生)：應援團の歌唱力は決して高くありませんから、吹奏楽部の皆さんにあきれられてしまわないか、正直、不安もありました。しかし、吹奏楽部の皆さんが大変好意的に受け入れてくださったおかげで、とてもうまくいったと感じています。

——では、本番当日の様子についてお聞かせください。

(三浦さん)：練習していたときよりも、伴奏と歌が合っていましたね。たくさんの方が集まった空間に、楽器の音と歌声が融合しながら響き合っているのは、とても気持ち良かったです。

(井田さん)：当日、アリーナがたくさんの人で埋め尽くされる光景は圧巻でした。應援團は学生だけでなく、教員應援團及び應援團OBの方々も参加してくださったので、会場の前方で大勢が立ち並ぶ姿も見事でした。最初は少し緊張していましたが、本番では吹奏楽部の皆さんと連携し、見事にやり遂げることができたと思います。

(関さん)：本番では、練習には参加されていなかった先生方や應援團OBの方もいらっしゃったため、練習通りにいかないのではないかと緊張しました。しかし、應援團の皆さんと吹奏楽部の部員たちのおかげで、壮大な演奏に仕上げることができました。

(平先生)：粗野なイメージの應援團と端麗なイメージの吹奏楽部の融合は、とても良かったですね。

(三澤先生)：入学式では、会場に着席していた新入生と應援團の位置が近かったこともあって、特に最前列にいた新入生が驚いていた雰囲気を感じました。

(関さん)：やはり歌が加わることで、演奏だけでは伝わらない大学歌の歌詞に心を揺り動かされるものがあった、本当に良かったです。應援團の皆さんの動きも、式典に華やかさをもたらしてくれたと思います。

(三浦さん)：楽器だけでは遠くまで音を響かすことはできませんが、應援團の皆さんの声量加わることでアリーナの端から端まで全部に大学歌が届いている感じがして感動しました。

(井田さん)：應援團単体で歌っていると、熱量はあるんですがちょっと暑苦しいというか(笑)。そこにきれいな演奏が加わるだけで、式典にふさわしい華やかな大学歌の斉唱になったので、吹奏楽部の皆さんに感謝したいですね。

## ここから新しい伝統がはじまる

——周囲の方々からはどういった反応がありましたか？

(三浦さん)：入学式での合同演奏の反響がすごくあって、まわりからは「とても良かったです」とか、新入生からは「入部したいです」といってもらい、実際に2名入部してくれたのはうれしかったです。

(井田さん)：「感動した」とほめてくださる方がたくさんいらっしゃいました。現在、獣医系大学で應援團が存在するのは麻布大学だけですが、ここ数年、コロナ禍もあって団員が減り、存続の危機にありました。それが卒業式後に獣医学科5年次の学生が2名、入学式後には3名の新入生が入部してくれたので、今回の合同演奏は大きな転機になりました。

(河合先生)：本学卒業生でもある小倉弘明理事長も「久しぶりに校歌がきけて、感動した」と感想を漏らしていたそうですし、学生や教員、御父母の皆様からも大変好評だったのはとても喜ばしいことだと感じています。

——最後に、今後の展望について教えてください。

(三浦さん)：これからも毎年、続けていければと思います。次の合同演奏に向けた課題としては、應援團と吹奏楽部の距離を近づけることですね。それでより良い大学歌の斉唱を皆さんにお聞かせできればいいと思っています。

(関さん)：私も、また来年の卒業式と入学式で、應援團の皆さんと一緒に演奏できることを願っています。その実現に向け、吹奏楽部のレベルをさらに引き上げるよう練習を重ねて技術を磨いていきたいです。

(井田さん)：應援團としても、この合同演奏を毎年恒例の行事にすることで、麻布大学を盛り上げていきたいです。来年はより素晴らしいパフォーマンスをお届けできるよう、日々練習を重ね、さらにレベルアップしていきます。

(河合先生)：麻布大学には素晴らしい大学歌があります。大学に在籍する教員と学生がいつも口ずさんでくれるような大学歌であり続けてもらうためにも、合同演奏のお手伝いを続けていければと考えています。

(平先生)：應援團と吹奏楽部が同じステージで大学歌の斉唱を行う、新しい伝統をつくっていくためにも、今回はもう少し早い段階から準備を進めていければと思います。

(三澤先生)：麻布大学には学生以外に教員やOBが参加する應援團があるわけですが、もし在学生の御父母の皆様もなかで参加してみたいという方がいらっしゃるようなら大歓迎です。大学歌を覚えていただいて、一緒に練習していきましょう！

# TOPICS AZABU UNIVERSITY

## 「獣医学術奨励賞」を本学教員が受賞

2023/12/2

令和5年度日本獣医師会獣医学術賞「獣医学術奨励賞」(産業動物部門)を本学教員が受賞しました。

### ■研究業績演題

妊娠豚へのワクチン接種時期と初乳摂取制限が哺乳子豚の血清中豚熱中和抗体価に及ぼす影響

### ■著者

野口倫子(獣医学部)、鈴木武人(獣医学部)、長井誠(獣医学部)、香宗我部一実(本学卒業生)、佐々木洋介、青木博史

## 映像・音響機材一新で、より質の高い“学生ファーストの教育環境”を提供

2023/12/12

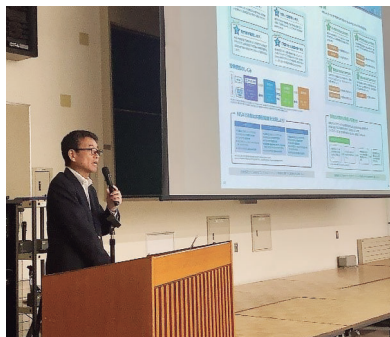
使用頻度の高い講義室のある建屋全体の映像・音響機材を一新しました。機材変更による効果は、「高品質な音響と資料投影で、講義の質を向上」、「機材を統一することで、授業の準備時間を短縮」、「メンテナンスの効率化」などが挙げられます。獣医学部の講義では「レントゲン画像がくっきりと投影できた」と教員から喜びの声を聞き、早くも効果を実感しています。



## 特別講義・大学生が身に付けるべき「金融リテラシー」

2023/12/22

1年次を対象とした全学科共通科目の「地球共生論」では、(株)きらぼし銀行の執行役員、(株)きらぼしライフデザイン証券の取締役社長を講師にお迎えして、金融の役割や銀行の機能、最新の金融経済動向など、計3回にわたって、講義していただきました。



## 「STUDIO DESIGN AWARD 2023」で、本学特設サイトが受賞

2024/2/16

麻布大学のDEI推進プロジェクトの特設サイト「AZABU DEI」が、Webサイトの祭典「STUDIO DESIGN AWARD 2023」において、企業特別賞のSHIFTBRAIN賞を受賞しました。審査員からは、「DEIという社会的な取り組みについてこのサイトを通して初めて知ったのですが、その背景や意義、難しさまでも包括的に認識できました。コンテンツ設計、人選、写真やテキストの質も、この大学に相応しいウオリティや在り方を目指したのだろうと思います。」との評価をいただきました。



## 「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度」に本学学生が認定

2024/2/26

令和5年度「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度」において、本学学生及び学生団体が認定を受けました。ボランティア学士に認定されたのは、獣医学科2年次の中村愛美さん、食品生命科学科3年次の金子瑠海さん、学生団体は、馬活研究会と、Tier〜人と動物の関係を考える会〜でした。



## 「いのちと共生の研究プログラム」研究成果発表

2024/3/24

本学が高大連携協定を締結した県立相模原高等学校、新渡戸文化高等学校、明星高等学校、県立横須賀高等学校の生徒らが、本学教員と約1年にわたって取り組んだ研究成果をグループごとに披露しました。さらに、麻布出る杭プログラム夏期集中セミナーに参加した横浜高等学校の生徒からも素晴らしい発表があり、会場は大いに盛り上がりました。





## ～トピックス 麻布大学～

### 特別講義「人の痛みを分かち合える人材になってほしい」

2024/4/15

「地球共生論」の2024年度第1回の講義では、本学獣医学科卒業生でもある福島県双葉町長を講師にお迎えして、東日本大震災の被災地としての苦しみや悩み、目指す未来について話を伺い、その中で学生に願いを込めて、この言葉を投げかけられました。



### 島根県と連携協定を締結

2024/5/28

本学は、島根県と産業動物及び公務員分野の獣医師育成に係る連携協定を締結しました。これにより、本学と島根県が相互に協力し、産業動物及び公務員分野の獣医師を目指す学生を増やすための取組を行い、島根県内で同分野に従事する獣医師の確保を推進します。

#### このほか、2024年1月以降 に連携協定を締結した機関

- ・2024/1/18 相模原市獣医師会
- ・2024/1/19 神奈川歯科大学
- ・2024/2/27 アメリカ合衆国州立  
北イリノイ大学
- ・2024/3/29 神奈川学園中学・  
高等学校

### 座間市が開講する「市民大学」に 本学教授が協力

2024/6/4

一般市民向けに開講している「市民大学」をもっとアピールしたいとの座間市役所からの要望を受け、島津徳人教授（獣医学部獣医保健看護学科）が「“歯周病”からヒトの動物の共生を考える」をテーマとしたPR講座に協力しました。



### 「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」で本学学生が受賞

2024/4/22

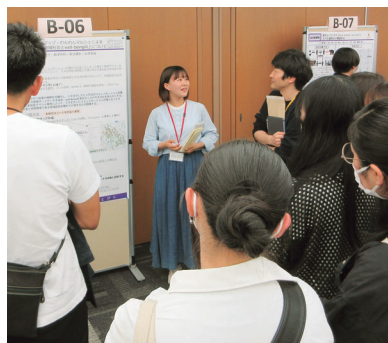
第25回「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」ショパニストA部門のオンライン決勝大会において、獣医学部獣医学科2年次の山崎麗生さんが銅賞を受賞しました。



### 「ジェネプロ 研究プロジェクト」 研究成果発表・修了式

2024/5/29

学部1年次後期という早い段階から「本物」の研究に取り組みられる本プロジェクトを修了した学生が、これまでの研究成果を発表しました。会場は、通常の卒業研究のポスター発表会と同じ形式ですが、明らかに異なる熱気と輝きを放っており、発表を終えたという達成感よりも、「もっとやりたい」という想いの方が強く感じられました。



### 相模原市で実施する「SDGsスタ ディツアー」に本学も協力

2024/6/5

相模原市教育委員会が市内の小学3年生を対象に実施しているSDGsスタディツアーに本学も協力しています。この日は根小屋小学校と湘南小学校3年生の皆さんが麻布大学いのちの博物館に来館され、大石元治講師（獣医学部獣医学科）が担当しました。



# TOPICS AZABU UNIVERSITY HIGH SCHOOL

## 「生徒がつくる学校行事～新たなスタート～」

### クラスマッチ

2月15日(木)

生徒会本部役員が学級委員長と連携し、クラスマッチを開催しました。  
49マス鬼ごっこやペットボトルフリップなどオリジナリティある競技を実施し、生徒は大いに盛り上がりました。



### 第61回卒業式

3月1日(金)

「304名」の3年生が卒業しました。  
空高く羽ばたき、活躍することを祈っています。



### 第64回入学式

4月8日(月)

「302名」の新入生が入学しました。  
個性豊かなメンバーがどんな学校をつくりあげるのか楽しみです。



### 春季生徒総会&陸上部壮行会

5月20日(月)

春季生徒総会が実施され、今後の学校生活に関する提案が生徒会本部役員および常任委員会委員長により提案されました。  
また、同日「陸上部」の壮行会を行いました。男子400m走にて2年生の小池太一さんが令和6年度関東高等学校陸上競技大会に出場します。

## ～トピックス 麻布大学附属高等学校～

### 体育祭

5月29日(水)・31日(金)

体育祭実行委員会が中心となり体育祭を開催しました。新たな競技である「3人4脚」や「ローハイド」が加わり、過去最多の競技数となった体育祭。天候に悩まされた1週間でしたが、臨機応変に対応し、各軍団の見事なパフォーマンスでフィナーレを飾りました。




### 「坂井丞選手」パリオリンピック壮行会

7月8日(月)


本校卒業生である坂井丞選手(3m飛板飛込・Miki House所属)の壮行会を行いました。新聞委員が事前に集めた質問に答えていただき「パリオリンピックに向けての意気込み」や「習慣化の重要性」など貴重なお話を聞かせていただきました。生徒会本部役員から応援旗と記念品が渡されました。




### これからのイベント

●9月  
翔瀏祭  
前期期末試験 

●10月  
2年生 修学旅行 

●11月  
1年生 校外学習  
球技大会 

●2月  
クラスマッチ 

●3月  
卒業式  
学年末試験  
修了式・離任式 

# TOPICS AZABU UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

## 【クラス会 開催報告】 同窓会ではクラス会の開催を助成しています

### 3月13日(水) 令和5年度 臨床検査技術学科4年次

臨床検査技術学科4年次のクラス会を開催致しました。クラス会では、今までの大学生活でお世話になった先生をお呼びし、歓談や食事、ビンゴ大会などを楽しみました。歓談では、これから社会人として働く卒業生に先生方からの激励やアドバイスをいただくことができました。また、ビンゴ大会では、カ



### 先生方からの激励を受け、社会へ。

ログギフトやゲーム機などの景品を用意し、とても盛り上がるものとなりました。新生活へ向けての様々なことをご享受していただければ、とても有意義なクラス会となりました。

令和6年卒業 安倍葉月



### 5月7日(火) 令和6年度 臨床検査技術学科1年次



### 先輩からのアドバイスで緊張をほぐす。

臨床検査技術学科1年次のクラス会を開催致しました。クラス会では、大学生活が始まって1か月が経ちましたが、授業・実習等に不安を感じている学生が多いため、2年次9名に参加して頂き、不安を解消するために多くのアドバイスをして頂きました。最初は緊張していましたが、2年次に相談し、駄菓子を食べながら徐々に緊張が解けていました。同窓会から助成して頂き、駄菓子とお茶を購入致しました。とても有意義なクラス会となりました。

1年次クラス担任 曾川一幸

### 4月25日(木) 令和6年度 獣医保健看護学科1年次

今年度、ついに獣医保健看護学科が開設され、一期生78名を迎えました。学科教員と学生の親睦を深めるため、4月25日(木)に学科懇親会を企画し、教員10名と学科1年次43名が集まりました。全体を7グループに分け、新生活における不安や疑問についてのグループワークを行い、ポスターを作成しました。一期生ということで先輩がいないため、不安や疑問についてのアドバイスは別のグループがポスターに書き足す形で実施しました。同じ1年次同士でも「なるほど!」と思うアドバイスや新たな考え方を知ることができたり、共通の心配事があることが分かり、安心したようでした。

グループワーク後は、軽食も取りながら自由に歓談し、麻布大学を選んだ



### 話す機会をもつことで、学生同士が助け合うきっかけに。

理由、授業の内容、教員の趣味など、様々なトークが繰り広げられました。後日、学生から「普段話す機会がなかった学生と話すことができ、参加してよかった」という感想もいただいています。

獣医保健看護学科では、4年次には国家試験合格という大きな共通目標があります。1年次から、学生同士で助け合い、疑問点が早めに解消できるよう教員と学生の間で交流を持つことが、目標達成に必要なと考えています。学生たちの元気なパワーを良い方向に導くべく、教員一同工夫していきたいと思えます。

1年次クラス担任 久世明香



## ～トピックス 麻布大学同窓会～

### 令和6年度 第1回 同窓会理事会開催

5月25日(土)

令和6年度第1回理事会を開催しました。

4回目のオンライン会議となり、接続によるトラブルもなく進行されました。対面での出席は会長、副会長2名、理事4名で、23名の理事と監事2名がオンライン出席でした。

オンライン会議にも慣れた理事の皆様の対応により、約1時間で会議は終了しました。



### 令和6年度 定時代議員会開催

6月15日(土)

令和6年度定時代議員会を開催しました。

代議員会もオンライン会議を基本とし、対面出席者は本学本館第一会議室に参集しました。来賓として小倉理事長、川上学長にご臨席を賜りました。

本定時総会の終結をもって役員(理事及び監事)の任期が満了するため、新役員が選任されました。新役員の任期は令和8年度定時代議員会終結の時までになります。

### 令和6年度 第2回 同窓会理事会開催

6月15日(土)

代議員会が終了後、新役員に選任された理事により、第2回理事会が開催され、福山守理事が会長に(再任)、青木ふさ乃理事、伊藤悦子理事、奥田雄二理事が副会長に選定されました。

### 令和6年度大学祭 同窓会コーナー 開催予定

10月26日(土)・27日(日)

#### ●講演会

「映像教材を主体とした新たな獣医実習教育の取組み」  
高木哲先生(本学獣医学部小動物外科学研究室教授)

#### ●支部からの名産品コーナー

千葉県支部より 「らっかせい」販売

毎年恒例の千葉県八街からのらっかせい。

大好評で一日目のお昼過ぎには完売します。お早めにお求めください!!

兵庫県支部より 「丹波の黒枝豆と黒ニンニク」

黒豆の名産地丹波市から、直送で届いたばかりの丹波黒枝豆を販売!!

旬だからこそ黒枝豆をご堪能ください。

愛媛県支部より 「揚げたてじゃこ天」

某知事の失言で爆売れ人気となったじゃこ天が麻布大学にも

やってきます!! 愛媛からの揚げたてのじゃこ天いかがでしょうか。

### 人気の動物相談コーナー今年も開催!



### 第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (令和6年度)における麻布大学同窓会行事

令和7年1月24日(金)～26日(日)

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会が宮城県仙台市の仙台国際センターで開催されます。参加会員の皆様との交流会は1月24日(金)の予定です。 ※詳細は同窓会ホームページでお知らせいたします。

### 「卒業生と在学生の集う会」

動物応用部会 動物応用科学科

11月30日(土)

麻布大学8号館百周年ホールにて、卒業生と在学生の集う会を開催します。各業界で活躍中の動物応用卒業生が集い、将来の夢と可能性を学生の皆さんにお伝えします。 ※詳細は同窓会ホームページでお知らせいたします。

### 「就職業界研究会」

生命・環境科学部会 生命・環境科学部

11月13日(水) 予定

卒業生がいる企業による合同説明会を麻布大学内で開催します。

先輩からの就活アドバイスを直接聞きませんか?

※詳細は同窓会ホームページでお知らせいたします。



麻布大学同窓会

LINE@公式アカウント始めました

お友だち募集中 ※詳細は会報をご覧ください

# REETING ~新任教職員あいさつ~

●●●●● 自分を漢字1文字で例えると ①新任にあたっての抱負 ②趣味や特技

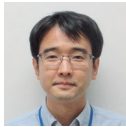


獣医学部 獣医保健看護学科  
獣医臨床看護学研究室  
准教授 今井 彩子

**兔**

20年近くうさぎと一緒に暮らしてきました。  
Life Changingな動物です。

- ①人と動物の共生する社会を獣医学的側面から支えることのできる人材の育成に力を入れたいと思っています。
- ②趣味は登山とランニングです。登山は山小屋泊縦走が好きです。ランニングは毎年富士山マラソンに出ています。

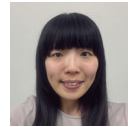


獣医学部 獣医学科  
臨床診断学研究室  
講師 峰重 隆幸

**繋**

臨床と病理を繋げたいと考えています。  
教育と実践を繋ぐ、橋渡しを目指します。

- ①研修医、大学院とお世話になった麻布大学に戻ってまいりました。学生教育と病理診断に貢献したいと思っています。
- ②趣味は子供と遊ぶこと、映画鑑賞、麻雀(最近はMリーグ鑑賞)です。特技はないですが、九蓮宝燈をあがったことがあります。

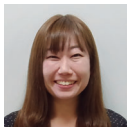


獣医学部 獣医保健看護学科  
獣医臨床看護学研究室  
講師 小野沢 栄里

**笑**

いつも笑顔でいる印象があるとされます。

- ①動物の看護を実践する上で、最も大切にすべき「動物看護師の視点」と「個別性」を考えられる愛玩動物看護師を育てます。
- ②趣味は音楽フェスに行ける生音を浴びることで、特技は動物の観察です。



獣医学部 動物応用科学科  
動物行動管理学研究室  
講師 池田 裕美

**笑**

笑いのツボが浅く、笑いすぎるとされます。  
先生方や学生さんが笑顔にしてくれます。

- ①麻布大学に就任することができ、とても嬉しです。動物たちの苦しみを減らすために学生さんとともに考えていきたいです。
- ②行き当たりばったり旅行です。旅先限定のお酒や動物グッズに惹かれます。地図を頭に入れることが特技になりました。



獣医学部 動物応用科学科  
伴侶動物学研究室  
講師 今野 晃嗣

**楽**

楽天的に楽しむことが大事だと思うからです。  
(できれば楽をしたいとも思っています)

- ①私の専門はイヌの心理学・行動学です。伴侶動物の社会的な「心」はどのように育まれるのか。その謎の解明に取り組みます。
- ②コーヒーとビールが好きです。ペガルタ仙台と楽天イギリスを応援しています。



獣医学部 総合科学部門  
生物学研究室  
講師 西本 裕樹

**究**

好奇心と探究心、拘りが私の原動力です。  
今後も新しいことを求め続けたいと思います。

- ①学生が学問を面白い・楽しいと感じ、それぞれの好きな分野を見つけられるよう、講義や研究を楽しみたいと考えています。
- ②ちょっとしたDIYや自作PC、マクロナど、何でも試しに作ってみたくなる性分で、時々思いつきで色々と作っています。



獣医学部 獣医学科  
小動物内科学研究室  
助教 西 晃太郎

**敬**

常に周囲の人達の助けを実感しています。  
人や動物への敬意をもって日々努力します。

- ①学生との対話を重んじ、個を引き出しながら臨床・研究双方に還元できる教育をしていきたいと思っています。
- ②食えることが好きで、いつも学生会や出張で各地域の名物が食べられる事を楽しんでいます。お酒も嗜む程度に好きです。



獣医学部 獣医学科  
獣医衛生学研究室  
助教 棚澤 共生

**牛**

臆病なわりに好奇心旺盛な個体が多いです。  
牛を見習い興味の幅を広げていきたいです。

- ①動物衛生学と産業動物臨床を担当しています。厳しい情勢下の畜産に貢献できる研究、教育に進進して参ります。
- ②我が家では農家生まれの黒猫と白猫計2匹を飼っています。猫をながめながら晩酌するのが趣味です。

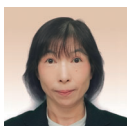


生命・環境科学部 臨床検査技術学科  
衛生学研究室  
教授 新倉 保

**縁**

人との出会いに恵まれ、そのご縁に助けられて  
きたからこそ今の自分があると思うからです。

- ①私の専門分野である寄生虫学を通じて、グローバル社会に対応できる検査技師の育成に貢献したいと考えています。
- ②主な研究対象は、原生動物であるマラリア原虫です。勤務時間外でも、油断すると研究のことを考えてしまいます。



生命・環境科学部 食品生命科学科  
食品微生物学研究室  
教授 大田 ゆかり

**醸**

発酵のように何かを変化させて作り出すのが夢。  
時間をかけて何度でも練り直します。

- ①学生とのじっくりとした対話の中で、多くのチャンスを与え、学生の自発的な行動を引き出す教育を目指します。
- ②料理、発酵でパンが膨らむ時、食材が美しく変わる時の感覚は、研究で微生物の力に出会う時の高揚感と似ています。



生命・環境科学部 臨床検査技術学科  
免疫学研究室  
准教授 水口 真理子

**笑**

いつも笑いを探しています。

- ①臨床検査技術学科の免疫学を担当します。好奇心と探究心を持って、学生さんと共に楽しく学びたいと思っています。
- ②美味しいコーヒーを求めてフラフラと出かけます。最近、コーヒーの焙煎をはじめました。



附属高等学校  
教諭 今屋 天海

**熱**

何事にも熱を入れて過ごしているからです。  
1つのことに熱中しすぎる悪い癖もあります。

- ①教員として初めて働く1年間となりますので、多くのことを吸収し、成長できる時間になりたいと思っています。
- ②休日は大学野球などを観戦することが多いです。換装過ぎるため、趣味ではなく義務感にかられることもしばしばあります。



附属高等学校  
教諭 中田 悠人

**運**

運がとて素晴らしいです。周りの人に恵まれて、  
素敵な職場で働ける幸運に、感謝しています。

- ①非常勤講師・契約講師だったので、不思議な感覚ですが、初心忘るべからずで、学園、そして生徒の為に全力を尽くしたいです。
- ②100m走・海釣りして釣った魚を捌いて調理する。



附属高等学校  
教諭 鳥井 杏珠

**笑**

人生には楽もあれば苦もあると思いますが、  
最後には笑えるように生きることが目標です。

- ①学園の一般職員として、携った生徒に充実した学校生活や学びの機会を授けることができるよう、日々精進して参ります。
- ②趣味は音楽鑑賞、食育、旅行・観光です。特技は聞いた曲の音階が分かることですが、まだ活用していません。

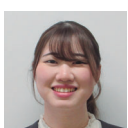


附属高等学校  
教諭 野部 将汰

**歩**

走ることはなくとも、歩みを止めることなく、  
また他者の歩みも促せる人になりたいため。

- ①初心を忘れず、学園の発展に寄与できますよう、微力ではございますが全力を尽くさせていただきます。
- ②4匹の猫と暮らしており、猫と一緒にすごすことが趣味です。



事務局 教務部  
入試広報・渉外課  
事務職員 門田 朋子

**明**

いつでも明朗であるように心がけています。  
持ち前の明るさで頑張ります。

- ①中途採用で入社し、今年で社会人6年目になります。未熟者ですが、早く学園の方とされるように邁進していく所存です。
- ②春夏は野球観戦や音楽フェス参加、秋冬は近場の観光地巡りと御朱印集めをしています。といつも普通はインドア派です。



事務局 教務部  
教務課  
事務職員 柄澤 友揮

**学**

新しいことを学んでいくことが大切と思っています。  
異業種転職なので頑張ります。

- ①業務改革に貢献します。前職ではSEとして学務システムの構築をしており、その経験を活かしていきたいと思っています。
- ②趣味は車です。納車2年待ちでしたが今年3月にようやく納車されました。特技はIT関連全般です。幅広く担当していました。



## 麻布大学 ワンだふる 本募金

### 麻布大学ワンだふる本募金とは？

在学生、ご父母、卒業生、教職員、近隣住民のみならず、読み終えた本や、不要になったCD、DVD、ゲームソフトなどを提携業者にお送りいただき、提携業者が買い取った金額を、みなさまからの寄付金として麻布大学に全額寄付いただき、学生用図書資料購入や環境整備等に充てるプロジェクトです。

【かんたん申込み】●ご自宅では段ボール箱に詰めてWEBから申込みをするだけです。●5点以上ならば送料はかかりません。

お申し込みは、WEBで受け付けています。  
買取査定についてなど、詳細はこちらのホームページをご覧ください。  
<https://www.charibon.jp/partner/azabu-u/>

※書籍等の集荷については、株式会社バリューブックスに運営をお願いしています。



よろしく  
お願いします



マスコット  
キャラクター  
フルボン

## 雑誌 スポンサー 募集

### 雑誌スポンサー(広告主)を募集します。

スポンサーになっていただくと新刊雑誌のカバーに広告を掲載することができます。雑誌は、学生をはじめ図書館利用者が閲覧しますので、宣伝や地域のPRに最適です。

スポンサー  
特典!

- 図書館所蔵の図書を借りることができます。
- 他の図書館等との相互利用サービス\*1を利用\*2できます。

\*1 本学で所蔵していない資料を他大学等に複写依頼できるサービス  
\*2 基本料金+複写料金+送料がかかります。

- 【募集対象】 企業、団体のほか個人も受け付けます。(※審査あり)
- 【スポンサー料】 雑誌の年間購読料
- 【対象雑誌】 図書館で指定する雑誌リストからお選びください。
- 【広告規格】 ●カバー表:縦10cm×横17cm  
●カバー裏:カバーのサイズを超えない範囲  
●雑誌架:雑誌架の扉のサイズを超えない範囲

お申し込み方法など、  
詳細はこちらのホームページをご覧ください。

[https://library.azabu-u.ac.jp/azlib/sponsor/sponsor\\_info.pdf](https://library.azabu-u.ac.jp/azlib/sponsor/sponsor_info.pdf)

X(旧Twitter)  
でも、雑誌  
紹介します



マスコット  
キャラクター  
しおりん

### 編集後記

巻頭で紹介しました2024年1月に附属動物病院がリニューアルオープンした「動物医療センター」及び4月から獣医学部に新たに設置・開講となった「獣医保健看護学科」は、いずれも麻布大学の教育研究の屋台骨となる施設・組織となります。麻布大学のブランド力を高め、大学及び附属高等学校の充実・発展につながっていくことが期待されます。

今号から学園情報の所管が教務部 入試広報・渉外課となりました。当該

は、2024年4月1日付けでこれまでの入試広報課と渉外課が統合された組織ですが、学生募集から入学者選抜試験の対応、入学式や卒業式の式典運営業務、そして地域との連携まで、幅広い業務を担うこととなります。今後も魅力的な内容を発信していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

入試広報・渉外課「学園情報」編集担当

# 地球共生系

～人と動物と環境の共生をめざして～

麻布大学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」です。

本学は、創設者よくら はるたか與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、

人と動物との共存および人と自然環境との調和の途を探求することを目的として

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学および環境科学に関する専門の知識を教授研究し、

その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、

平和社会の建設に貢献することとしています。

## 大学

### 【獣医学部】

- 獣医学科
- 獣医保健看護学科
- 動物応用科学科

### 【生命・環境科学部】

- 臨床検査技術学科
- 食品生命科学科
- 環境科学科

## 大学院

### 【獣医学研究科】

- 獣医学専攻(博士課程)
- 動物応用科学専攻(博士前期・後期課程)

### 【環境保健学研究科】

- 環境保健科学専攻(博士前期・後期課程)

## 麻布大学附属高等学校

- 普通科

## 附置・附属機関

- フィールドワークセンター
- 附置生物科学総合研究所
- 附属学術情報センター
- 附属動物管理センター
- 附属動物病院
- 大学教育推進機構
- 研究推進・支援本部
- 麻布大学いのちの博物館
- 健康管理センター
- DEI推進センター

# 学園情報 177

AZABU UNIVERSITY

2024年9月1日発行

発行／事務局 教務部 入試広報・渉外課



学校法人 麻布獣医学園

## 麻布大学

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-754-7111(代表)

FAX 042-754-7661

ホームページ <https://www.azabu-u.ac.jp/>

Eメール [koho@azabu-u.ac.jp](mailto:koho@azabu-u.ac.jp)



## 麻布大学附属高等学校

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-50

TEL 042-757-2403 FAX 042-751-6280

ホームページ <http://www.azabu-univ-high-school.jp/>

## 一般社団法人麻布大学同窓会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-769-2183 直通 FAX 042-759-0337

ホームページ <https://azabu-doso.com/> Eメール [doso@azabu-u.ac.jp](mailto:doso@azabu-u.ac.jp)